

<自治連提案文書用>

「自治連合会の改革に関する委員会」の設置について

会長提案

標記「自治連合会の改革に関する委員会」の設置については、既に了承を得ているが、今般、当該委員会の課題と委員構成など具体的な運用に関する提案を行う。

1) 委員会における検討の柱

- ① 地域社会と住民生活の構造的な変化に呼応した自治連合会の抜本的なあり方
- ② 「市民センター改革案」への対応など大津市との新たな関係
- ③ これらに応えるコミュニティ基金など共同財産の活用

2) 委員会の構成

- ・2013年7月に設置された「日吉台まちづくり協議会」において「自治会、自治連組織のあり方」ならびに「日吉台として所有する財産（コミュニティ基金、土地）について」が検討され、2015年4月以降の第2期「まちづくり協議会」が各種の事業化とならんで街づくりの政策協議を進めてきた経過から、同協議会に委員会の事務局を置く。
- ・委員会の構成は、自治連会長はじめ自治連役員から数名（コミュニティ基金委員を含む）、各丁自治会から1名、ならびに町内関連団体から数名で組織する。「まちづくり協議会」会長を事務局長とする（また同事務局長を事務局次長とする）。
なお、本改革は、各丁自治会のあり方とも強く連動しているため、並行して、各自治会に「自治会のあり方検討委員会」などが設置されて改革論議が進められ、ここから本委員会に代表が出されることが望ましい。

3) 委員会の開催時期と取りまとめ

- ・本委員会は月例会として、毎月第 曜日 時から市民センター会議室に於いて開催する。
- ・2018年度自治連合会総会を踏まえて本年6月より委員会活動を開始する。各丁自治会も、それまでに（自治会のあり方検討委員会を設置するとともに）本委員一名を選出し、自治連に連絡する。

- ・市民センター機能の改革案が大津市から出されている状況にあり、今後、自治機能をめぐる大津市との関係が流動的に変化する可能性もある。本委員会での検討作業は、この動きにかなりの影響を受けるものと思われる（逆に、大津市の行政改革に対して積極的な影響を及ぼすことも考えられる）。つまり、本委員会は、決められた期間内に論議をまとめ上げ、提案することが困難な事情にある。
- ・しかし本委員会は、そもそも、急速に構造変化を遂げつつある日吉台の今後の姿を見据えつつ自治会の機能のあり方の抜本的な改革を検討するものなので、時期を逃すことなく的確な提案がなされることが期待されている。

4) 本委員会設置の趣旨

私たちの暮らしの場である日吉台団地は、いろいろな意味あいでも成熟状態に達している。例えば、居住人口が漸減する中で、65歳以上が50%を超す超高齢社会になりつつある。それぞれに人生の達成感を感じながらも、生活上、健康上の課題に直面する人々も増えている。それだけに、従来からの輪番制などによって、自治会の諸行事や役割を等しく分担することは困難な状況が生まれている。

他方、定職も離れ、ようやく余裕のある日常生活を始める中で、「住んで良かった日吉台」と言える地域であって欲しいと思う声も強まっている。そのために自分の経験や資質を役立てても良い、まちづくりに参加して健康寿命を伸ばせるならばなお良いと思う人々も生まれている。地域社会の活性化に向けた自治会づくりの担い手が現れているのである。

さらに、昨年来、大津市は「市民センター改革案」を提起し、大津市における地方行政の合理化・再編成を行う中で、肩代わりも含めて学区自治連合会との関係についての見直しを行うことを計画している。私たちの暮らしが変化し、地域社会との新たな関わりが生じて、いわば「自助」と「共助」の関係が変化するとともに、地方自治体などによる「公助」との関係の変化もこの「自治連合会の改革に関する委員会」のもとで検討する必要性が生じている。

さらに、この間、その運用が課題になっているコミュニティ基金についても、本委員会での改革内容に深く関わり、あるいはこれを支えることにもなり得るので、ここで、合わせて検討することにした。